

平成28年度 学校評価（自己評価結果等）

前年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に満ち、大いに夢を語る場となす ・グローバルな社会を豊かに生きる逞しい人材の育成 ・エンカレッジ運動の展開 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・校内防災体制の確立 ・地域防災リーダーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の防災体制の改善 ・防災に関する研修参加への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における教職員の役割を整理、確認することができた。 ・避難訓練では、地域活動である「あいちシェイクアウト」の一環として行うことができた。 ・各種防災研修に参加し、防災教育時の資料作成に役立たせることができた。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業力の向上」 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学の充実 ・授業評価アンケートの実施 ・公開授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全科目について、生徒による授業アンケートを実施し、結果を各教科会に示し、授業改善の一助とした。 ・授業見学週間を設定した。教員一人一人が授業方法を振り返る研修のよい機会となった。 ・授業見学、公開授業の機会をさらに充実させ、指導法の継承や授業改善につなげたい。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジによる進路実現の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路シラバスの活用 ・面談指導の充実 ・難関大学別特別講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路シラバスや進路研究会、進路検討会の結果を通して、生徒に適切な情報を提供し、高い志望を維持させることができた。 ・個別大学を対象とした特別講座の充実により、生徒の高い志望に応え、合格に結びつけることができた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力の育成と防犯意識の向上 ・いじめの早期発見、適切な事案対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・風紀委員会活動の活性化 ・生徒主体の取組への支援 ・いじめについてのアンケートの実施方法や、その後の対処について検証し、早期発見や適切な対応につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風紀委員会によるボランティア活動、ハザードマップ作成を通じて達成感を感じる場面を提供し、自己肯定感を高めることができた。 ・生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応について検討した。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・相互理解と自己理解力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動、行事、部活動、委員会における人材の育成とエンカレッジ運動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(特に西祭)や部活動を中心にエンカレッジ運動を推進し、人格形成やリーダーシップ育成の一助とすることができた。 ・生徒会活動として震災募金の継続・エコキャップ運動を実施した。 ・東海大会へ今年も二部活で出場することができた。
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> ・心身両面における自主的な健康管理能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・的確な健康情報の提供と指導 ・保健室来室者に対する「エンカレッジ運動」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症や感染症の流行期には掲示資料や校内放送を入れて注意を喚起した。食物アレルギーや心疾患等持病を抱える生徒に対して個別に面談を行う等、タイムリーに情報提供と保健指導を行った。 ・保健室来室者には積極的に声かけを行い、努力を認めるとともに、様々な場面で声かけが行われるよう関係職員と情報を交換し、エンカレッジ運動を推進した。
	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有化による教育相談委員会の充実 ・スクールカウンセラーの効果的な活用
図書研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修の連携と充実 ・充実した図書館活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、授業見学への積極的な取組の推奨 ・生徒主体の委員会活動の推進、館内整備の推進と蔵書の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者、経験者研修ともに順調に実施できた。研究授業の参観者は従来より多く、研鑽に繋がった。今後も連携を深めたい。 ・図書館は、生徒図書委員の活躍により充実した活動ができた。ビブリオバトルや雑誌バックナンバー配布会は行事として定着した。今後は、読書指導の取り組みにも力を入れたい。
SS事業部	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間かけて行う課題研究の指導体制の確立 ・SSH事業の効果を検証し、評価する手法の確立 ・SSHの成果発信の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年及び第3学年の課題研究指導体制を確立し、担当者間の連携を円滑にする。 ・昨年度開発・導入した評価法をより客観的なものに改善する。 ・HP等でのSSH事業の成果発信を質・量ともに強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究委員会にて指導の内容・手順と生徒活動の内容および評価基準を明確にした。第2学年及び第3学年の担当教員全体による指導体制を確立した。 ・「レディネス・PISA型・事前事後調査」の結果と各SS科目・SSH事業における「11項目評価」を関連づけて分析した。 ・HPの更新頻度を高め、公表内容を強化する。豊田市役所と連携したSSH事業や課題研究の成果発信に取り組んだ。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の把握と初期指導の徹底 ・生徒が満足感、成就感を得られるような支援と指導の充実 ・自ら勉強する態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や学習記録表などを通じて担任が指導・支援し、学年全体で情報を共有し支援する。 ・教師と生徒及び生徒間における好ましい人間関係を構築する。 ・週末課題など課す他、朝夕の空き時間等の有効利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通して、個々の生徒の把握に努め、学年会等で情報を共有し、学年全体で生徒の問題に対処できた。 ・時に応じて正副室長会を開催し、生徒からの声を吸い上げ、生徒指導や学習指導にフィードバックできた。その結果生活習慣や学習習慣の確立を手助けすることができた。 ・自習することの意義を説明し、特にテスト週間時には教室を開放し、有効に学習ができた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、主体的に行動する意識の涵養 ・基礎学力完成を目指す授業と指導 ・高い目標設定と実現に向けての支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、SSH、部活動への主体的な行動を促す。 ・達成目標を共有し、計画的な学習を支援する。 ・生徒の可能性を信じ、高い目標設定を促し、実現のための道筋を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心学年としての自覚を持つよう促し、指示を待つのではなく、自ら考えて行動するよう指導した結果、良好な取組が見られた。 ・国数英については、年度当初に今年度の到達目標を明示した。日々の学習記録表や長期休業学習計画表なども活用した。 ・第一志望届を提出させることで、進路希望についてじっくりと考えさせることができた。国数英で、上位者向け添削を開始した。多くの生徒が高い目標を掲げ、努力することができた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択における校訓「躬行実践」の体现。 ・常に「1年後の自分」を見据えた真摯な学習と進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・時節毎の面談を通じ、個に応じた生徒支援や教育相談を行う。 ・教室、職員室において常に課題を語り合い、より良い方策を即時的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には終始高い志望目標をもたせ、その実現のために担任による面接をこまめに実施し、多くの生徒が最後まで妥協せずに頑張ることができた。 ・文化祭、体育大会直後より、教室を自習教室として開放するなど、早くから自分で計画的に自習する習慣を確立させた。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標については、概ね達成することができた。 ・学校の教育活動の中心は毎日の授業である。授業評価等を活用した改善をさらに進め、授業力の一層の向上に努めたい。 ・グローバルな社会を豊かに生きる逞しい人材を育成することが期待されている。そのための資質や能力を高める取組を教育活動の様々な機会を通して進めることができた。 ・エンカレッジ運動については、様々な機会を通して取り組んだ。「声かけ」「励まし」を適切に行ったことにより、生徒のモチベーションが高まり、教員と生徒との信頼関係も深まった。 		